

1 感性

視点② 不思議さを感じる

子どもは、大人には予想できない場面で、不思議さや疑問を感じる場合があります。そして、保育者がその姿を見逃さないように視点をもつことで、「子どもたちが心を動かして対象に関わり、探求心を膨らませて意欲的に遊ぶ体験」を見取することに繋がります。

この事例では、天井の光に「キラキラチョウチョ」と命名するほど、光が興味の対象になっていることを保育者が把握し、子どもが自ら不思議さを解明する保育を展開しました。子どもたちは「自らアルミ製の弁当箱、ステンレス製スプーンなどを持ち出し、次々と確かめる」遊びを始めます。「光を映し出しやすい物」で確かめている姿から、子どもたちは遊びながら物の特徴を感じ取っていることが分かります。

「キラキラチョウチョだ！」 4歳児

学校法人鹿児島竜谷学園 和光幼稚園

テラスに置いていたステンレス製の給食用運搬車に太陽の光が当たり、反射して天井に三角がいくつも重なったように映し出されていた。子どもたちは、いつものように昼食を食べ始める。



A児が「何かいる！」と天井を指す。その指の先にみんなの視線が集まる。「チョウチョがいる！」とB児。不思議な物を見つけた子どもたちは、「キラキラチョウチョだ！」と大興奮する。

子どもたちは、正体が分からず、給食の準備が始まる度に出てくる「チョウチョ」を眺めながら、給食を楽しんでいた。数日して、A児は保育者が給食用運搬車を動かすと「チョウチョ」のような光が動くことを感じ取った。

『あれだ！！』と正体を掴んだA児の行動をきっかけに、運搬車を動かしてその光の動きを楽しむ。子どもたちは「運搬車でなくてもできるのではないかと考えて、その代わりになる物を保育室で探し始める。子どもたちは、アルミ製の弁当箱、ステンレス製スプーン、水筒、ままごとの皿、箸入れケース、プラスチック製飼育ケースなどを次々と持ち出し、自らかざして確かめていった。



靴箱の上にあった飼育ケースをかざすと、見事に反射することに気付いた。使う物によって映り方が違うことを感じる。天井がキラキラ輝く様子を喜び、光を当てて遊ぶ。

自分が見つけてきた物をかざして「光った」「動いた、動いた」と言って遊ぶ。自分の映した光はどれなのか分かりにくいながらも、自分のかざした物で天井に映す光を楽しむ。子どもたちが持ち出して確かめていた物は、光を映し出しやすい物であった。

(関連事例P.27)